

長野県軽井沢町・市村家所蔵 尾崎行雄(罌堂)関係資料所在調査報告

土井 永好

1 はじめに

明治期の青年時代から昭和戦後期の晩年まで一貫して日本の立憲主義・民主主義の確立や国際平和の実現に献身した尾崎行雄（オザキ・ユキオ）。一番長く使われた雅号・罌堂（ガクドウ）とともに国の内外、特にアメリカ合衆国においてその業績が広く知られている¹⁾。尾崎の出身地は現在の相模原市にあたるが、幼少期までの生活歴しかなかった。さらに後年には帰郷生活の意思が見られず、残念な事実ではあるが地元にはいくつかの書簡や揮毫類を除けば“偉人と郷土”を語る資料は皆無と言わざるを得ない状況を呈した（一部寄贈資料は当第16集で目録化²⁾）。

そうした中、生誕地に開館している「相模原市立尾崎罌堂記念館」の再整備事業が平成18（2006）年市町合併後の博物館行政運営における重点課題として位置づけられ、21（2009）年には「尾崎罌堂記念館再整備計画」が策定された。当該計画に、学芸分野に関する項目の1つとして＜資料の調査・収集・保存方針＞を示し、旧状を改善する施策の実施を表明した。今回報告する調査はこの方針に沿って行ったものであり、尾崎を多角的に研究していく一環で新出資料の解明から出生地・相模原との関係の有無を探ることも目的とした。（本文中、故人の敬称略。以下同じ。）。

2 調査の経緯及び経過

平成23（2011）年の春ころ、長野県軽井沢町在住の市村光氏から所蔵資料のコピー類を添えた案内状が記念館に寄せられた。内容を把握した筆者は兼務担当により、答礼を含め資料実見と調査実施のお願いを発した。先方の快諾を得た同年6月28日には最初の調査のため市村家を訪問し、瞥見して150件余の書簡・写真・揮毫類が確認できた。所蔵者の手により曾祖父が残した資料群は1点1点クッキリポケットに整理収納され、資料の遺存状態の良好さからも調査の実効性に期待が高まった。

所蔵者の意向に従い外部搬出による調査実施を回避することや筆者の他業務等を勘案して、不定期ながら出張調査を継続することで了解が得られた。こうして26

（2014）年1月まで通算15回30日間、軽井沢の地理的歴史的環境を理解しながらの資料調査を実行した。調査方法は実務を筆者が単独で行うことになったため、種々の制約から＜資料再分類＞をした上での＜資料情報化＞＜写真記録化＞を励行した。また、所蔵者の日常生活に配慮し、資料カードへの情報記載とデジタルカメラによる簡易撮影を反復して時間の短縮化、作業の迅速化を図ることにした。

3 尾崎行雄と信州軽井沢

(1) 尾崎行雄について

尾崎行雄は、旧暦安政5（1858）年11月20日に相模国津久井県又野村（現在の神奈川県相模原市緑区又野）の名主家に誕生した（幼名、彦太郎）。父の明治新政府出仕に伴い青少年期を東京、高崎、伊勢で過ごし、成人後は新聞論説記者、官吏、東京府議を歴任して頭角を現した。さらに大隈重信率いる立憲改進党に属して自由民権論者の急先鋒となる一方、自主外遊により世界情勢の摂取を図った。第1次及び第2次大隈内閣時代には文相・法相として入閣したものの、後年結果的に首相や党首を経験しなかったため、権力構造の中で認知される政党政治家として評価には賛否両論が付くことになる。明治23（1890）年7月1日の第1回衆議院議員総選挙で初当選を果たして以来、連続25回当選で60年10か月に渡る最長通算任期を記録した後、昭和29（1954）年10月6日、神奈川県逗子市の私邸で96年に及ぼんとする天寿を全うした。

尾崎の生涯を見ると、＜明治期の東京市長時代＞＜大正期の憲政擁護運動＞＜昭和期の軍部・翼賛体制批判、世界連邦提唱＞が脚光を浴びるが、そうした時期や年齢に関わらず尾崎は、絶えず言論と行動そして民意を尊重する姿勢をもってイギリスを範とする立憲民主政治の発展に尽力したと一般には評伝される。

(2) 避暑地生活の開始

群馬・長野県境である碓氷峠の西、そして浅間山の南東に広がる日本有数の避暑地軽井沢は、江戸期には中山道「浅間根越の三宿」として繁栄したが、零落後の明治

期における風土再評価や鉄道開通が契機となって外国人主体の一大別荘地へと変貌した。さらに大正期に入ると、民間大手資本によるリゾート開発が進むにつれ日本の政・財界や文化人層が増加する一方、帰国等により徐々に外国人は減少していくものの現在の発展に続く素地が形成された。

尾崎は、東京市長時代の明治38（1905）年10月に日英混血の同姓女性と再婚した。妻・テオドラ英子は独身時代から故郷英国の気候に似た軽井沢にたびたび滞在するに及び、結婚間もない夫の頭痛を心配し彼地行きを勧めたとされている。尾崎は、加連邦人宣教師・A.C. ショーが軽井沢を“森の中の屋根のない病院”と評したごとく劇的に快癒し、愛好する乗馬にも適した彼地の自然環境をととても気に入る。後年その理由を記している³⁾。別の避暑地・日光に集う階層とは違う質素な知識人らの存在に気楽さを覚えたことも拍車をかけたようだ。こうして数年間の貸別荘住まいを経て、英国人所有の別荘を万平ホテル二代目・佐藤国三郎らの手配も得てついに購入するに至る⁴⁾（東京市長退職金を原資としたらしい）。これが大正2（1913）年6月8日、愛宕山下の二手橋近くに所有した「莫哀山荘（バクアイサンソウ）」であり、東京・北品川（後には神奈川・逗子）との二重生活及び信州北佐久地方との関係の始まりを告げるものであった。別荘の名称（＝^{かな}哀しむは^な莫し）については、敷地内の小丘が莫哀山とは特に呼ばれていないことや一老書生の回顧⁵⁾から18世紀中葉にプロイセン王国・フリードリヒ2世が造営した夏の離宮「サン・スーシ宮殿」に着想を得たことは疑う余地はない。尾崎は、過ぎし日欧州外遊の際、ベルリン近郊ポツダムを訪れ、この遺跡を深く印象に留め置いたと解釈できよう。おそらくフ大王の境遇や宮殿利用を自身に投影し、憧憬の念とユーモアを交えて命名したものと理解したい（ちなみに同宮殿の漢訳は、「無憂宮」）。

(3) 市村一郎との邂逅、北佐久地方との縁由

尾崎は、第1次護憲運動と相前後して夏季の軽井沢生活を本格的に始めた。年を経るに従い、避暑地に憩う政財界・軍部の要人や文人墨客との交際が増す一方、当然ながら気が置けない地元名士の知己を得ることとなる。その中のひとりが、軽井沢駅前郵便局長・市村一郎であった。市村は、明治3（1870）年生で尾崎とはちょうど一回り下の年齢に当たり、日露戦争復員後の38（1905）年12月に新しく設置された新軽井沢郵便局の局長を務めた（大正14（1925）年11月、軽井沢駅前郵便局へ名称変更）。当時、界限には2つの郵便局があり、莫哀山荘に近い旧軽井沢の軽井沢郵便局と軽井沢駅頭に近い新軽井

沢の駅前郵便局であった。尾崎は、何かと利便性のある駅前郵便局を多用するようになるが、局舎敷地320坪を彩る多くの樹花にも惹かれていたようだ（鳩山一郎や福島安正らも同趣）。自ら贈銘した「栽華園」の庭路を歩いて裏口から局舎に入り、市村と歓談することもしばしばであったという。今回の調査では、第1次大戦後の欧米視察出発に際する大正8（1919）年3月17日付け印刷札状が最古の書簡として確認できたので、少なくとも莫哀山荘を開設して4、5年の内には市村との関係は始まっていたと推測する。

“尾崎第二の生活拠点”ともいうべき軽井沢には、政治の喧騒から離れ英気を養う身の回りに村民・町民が集まり、この地ならではの人間交流が繰り広げられたようすがうかがえた。そして当事者である＜憲政の神様、軽井沢の主＞と＜駅前郵便局長＞の親交は、極私的で日常的な事柄に終始したことも把握できた。当然とはいえ、政治的な話題のやりとりはほとんど顔をのぞかせていない。尾崎は軽井沢近隣の小諸、上田方面への小旅行に親しむほか自らの書生等に北佐久出身者を就労させるなど、市村を介した事歴を实际生活に織り込んだ事実が初めて判明した。

4 調査資料について

後掲の資料目録のとおり222件371点を確認し、凡例に示した基準で登載した。各件の情報については内容・備考欄にまとめたので、ここでは紙幅の都合から要点を記しておく。

(1) 構成

〔書簡〕〔電報〕〔書画〕〔写真〕〔その他〕の5項目に分類し、それぞれ順に〈154件293点〉〈7件7点〉〈8件8点〉〈35件37点〉〈18件26点〉を数えた。幸い60～90年間の保存環境の良好さもあって、総じて劣化は見受けられず奇跡的な資料状態であった。特に書簡は、尾崎行雄発信に限っても130件が伝えられ毛筆・ペン字、縦書き・横書き、候文・カナ電信文調など多彩な形態で占められている。書画は筆忠実な尾崎にしては意外なほどの僅少さだが、市村発案の仕立て具合でみごとな墨痕を留めている。「揮毫依頼への注意」(資料No.〔書簡〕-4、〔その他〕-3・4)に市村が配慮した可能性を指摘できようか。写真については全て印画紙に焼き付けられたもので、ガラス乾板やネガフィルムの内容は認められなかった。また、到来物も含め尾崎が被写体となったものは市村の親族写真に分類され混入していることも考えられ、精査により今後若干の数量増が予想される。

(2) 特色

資料の中核をなす書簡を経時的に俯瞰すると、いくつかの変化を指摘できる。まず書式だが、当初は毛筆・ペンを問わず縦書き候文で作成されているが、昭和14(1939)年5月を境に突如としてペン字横書きが出現する。この横書き書簡には、候文・紋切り型・ですます調などさまざまな文体が使われ、さらにカタ仮名をふんだんに用いた電文調の表現も出てくる。以後、縦書き文との併用が続いていくこととなるが、尾崎がどういう状況下で書式を使い分けていたのかを考えると大いに興味ある点である。また、同時期から年次毎の点数が増加していく。これはおそらく、尾崎の邸宅・逗子風雲閣が昭和12(1937)年末に焼失したと無縁ではなかろう。再建後の敷地整備や使用人雇用など北佐久地方との関係が深まっていく証左として認められる変化である。

書簡内容から見ると、昭和17(1942)年の第21回衆議院議員総選挙（いわゆる翼賛選挙）に伴う資金精算に関し、選挙区民でも後援会組織でもない一友人に相談を持ちかけたものが1通確認できた（No.92）。154件中、政治家・尾崎の動向を知る白眉な存在で、当該選挙の苦労を伝えるとともに市村への信頼度を物語る資料である。

5 おわりに

以上のとおり、信州軽井沢に残されたほぼ未出の尾崎行雄関係資料を悉皆的に調査することができた。繰り返になるが、残念ながら200件を超える資料群は政治家・尾崎を活写するに足る新発見には恵まれず、生誕地・相模原津久井とも無縁の結果となった。しかし、日記が残されていない尾崎の大正期から昭和戦前期における日常生活の軌跡を追える貴重な機会を得ることとなった。その7割を占める書簡類からは30年余にわたる両者の深い親交具合や魅力的な人間性、後援会組織でない軽井沢との濃密な関係（尾崎による地域貢献）などを十分にうかがい知ることができた。また、作業進捗の過程で北佐久地方に伝わる別家資料の存在が伝えられ、新規調査の糸口を与えられるに至った。既述のとおり「尾崎罌堂記念館再整備計画」における〈資料の調査・収集・保存方針〉に照らし、今次資料の個別詳報も含め続報への課題としたい。

さて、2年半の調査活動は資料所蔵者・市村光氏の全面的な御理解と御協力に支えられた。ここに深謝の意を表するとともに報告資料の一部が掲載された同氏開設のホームページの紹介をしておきたい。

[市村一郎記念館 URL] = <http://www.dia.janis.or.jp/~ichi-kgd/>

注

- 1) スーザン・フィンチ 1992「尾崎行雄の政治理念と世界思想の研究」『N I R A 研究報告書』 総合研究開発機構
- 2) 上田幸枝 2007「尾崎行雄関係文書目録」『相模原市立博物館研究報告』第16集 相模原市立博物館
- 3) 尾崎行雄 1955「第四編 客と語る（軽井澤）」『尾崎罌堂全集』第十巻 公論社
- 4) http://www.concierge.ne.jp/002_classic/004_manpei_no05.html
- 5) 小川紫郎 2000「第六章 思い出すまに 叱責と御心遣い」『罌堂 尾崎行雄』三田出版会

主用参考文献

- 泉喜太郎編 1953『町誌 軽井澤』 軽井澤町誌編纂會
 猪坂直一 1979『小山邦太郎の足跡 — 蚕糸業および中小企業への情熱』 小山邦太郎先生伝刊行会
 朝吹登水子 1985『私の軽井沢物語 — 霧の中の時を求めて』 文化出版局
 中島松樹編 1987『軽井沢避暑地一〇〇年』 国書刊行会
 宮原安春 1991『軽井沢物語』 講談社
 塩川治子 1993『不死鳥』 河出書房新社
 広川小夜子 2013『HISTORY of KARUIZAWA — 縄文時代から現代まで —』 軽井沢新聞社

付 〔市村家所蔵・尾崎行雄(号堂)関係資料目録〕

【凡 例】

- 1) 当目録は、長野県北佐久郡軽井沢町在住・市村光氏が所蔵する「市村一郎記念資料」の中から尾崎行雄(号堂)に関係するものを選別整理した222件371点の所在目録である。作成は、相模原市立博物館学芸員(歴史分野担当)・土井永好が行った。
- 2) 尾崎行雄の直接資料のほか、近親者・側近者等の資料も調査目的を補完する意味から対象とした。各資料の内容により書簡・電報・書画・写真・その他の5つに分類し、記載項目は分類別通し番号・資料名・時期・作成・受取・形態と数量・寸法・内容と備考を掲げた。
- 3) 資料名欄は、原資料の名称のほか、特に書簡は内容が理解しやすいよう簡潔に表現した。
- 4) 時期欄は、和暦で年月日の字句を略した。確定しがたい場合は、()・□・不詳と示した。作成順の掲載を基本としたが、一部順不同もある。
- 5) 形態欄は、[状]としたものには和紙・洋紙・罫紙・葉書・その他の使用があり、便宜的に状物として括った。[封]は封筒、[冊]は製本されたもの。書画においては記載のとおりである。
- 6) 内容と備考欄は、資料の状態や時期推定の根拠、現時点で解明または推定できる資料情報を要約した。
- 7) 旧漢字・変体仮名は常用漢字・現行仮名に改めた。漢数字はアラビア数字、度量衡は単位記号を用いた部分もある。汚損や判読不能な箇所は□とし、推定によるものは()書きした。
- 8) 職業に関する表現において一部、差別的用語(不快表現)が含まれるが、当該資料目録の性格上、当時の社会情勢を示す歴史的用語としてそのまま掲載した。趣旨をよく御理解いただき、その利用に際しては十分に配慮されたい。
- 9) 後日調査により、補正・訂正・追加される内容が含まれるので注意されたい。
- 10) 所蔵者の許可を得て、掲載資料の一部画像を別掲した。

I 書 簡

番号	資料名	時期	作成	受取	形態・数量	寸法(mm)	内容・備考
1	「欧米漫遊出発の節の厚情に感謝」	大正8.3.17	尾崎行雄	(市村一郎)	状1	141×91	ハガキに印刷。4男・行輝を同伴して第1次大戦後の欧米視察に出たときのもの。
2	「小生の当選に対し、さっそく祝辞を預かり深く感謝」	大正13.5.15	尾崎行雄	(市村一郎)	状1	141×91	ハガキに印刷。軽井沢駅前局と新軽井沢局の消印14.10.31と14.11.1がある。
3	「できるだけ広く本書を頒布くだされたく」	大正14.10	尾崎行雄	(市村一郎)	状1	195×357	和紙に印刷。大量配布用か。本書とは『政治読本』か。
4	「揮毫依頼には本年から別紙のとおり取り決めしにつき」	(昭和2)7.21	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:204×717 封:204×83	揮毫依頼への注意を要請。市村は封筒を裁ち開き、書簡を封筒幅に合わせて額装し、依頼者への拒否説明用として掲示したか。別紙とはV-No.3かNo.4と判断でき、その日付から時期推定。
5	「昨日御依頼の碑文、作成しました」	(昭和3)1.6	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:182×99 封:211×85	碑文とは倉賀橋竣工碑の撰文か。消印3.1.6から時期推定。
6	「追分駅から東京新宿駅まで浅間溶岩の貨車1杯運賃等はいかほどか」	(昭和3)1.15	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:198×254 封:214×85	紀州新宮から19日帰京予定で、上品川へ連絡を要請。消印3.1.15から時期推定。
7	「クルマの苗大小20本、ありがたく受け取りました」	(昭和3)5.1	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:182×214 封:209×82	封筒表裏に渡り、浅間バラス1tの軽井沢・逗子間運賃を質問して、さらに10tまでを質問。消印3.5.1から時期推定。
8	「浅間バラス調査、石炭たきガラ注意のお礼、そしてカタクリ草を拝見」	(昭和3) 5.7	尾崎行雄	市村一郎	状1	91×141	逗子の絵ハガキ。消印3.□.□から時期推定。
9	書簡封筒	(昭和3.5.7)	尾崎行雄	市村一郎	封1	208×83	
10	「大好物のタラの芽、たくさんいいいただき」	(昭和3) 5.9	尾崎行雄	市村一郎	状1	90×142	逗子の絵ハガキ。消印3.5.11から時期推定。
11	「中位の浅間焼石を5t車か8t車に1両だけ逗子まで送られたく」	(昭和3)6.15	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:190×222 封:210×84	追分所有地の焼石採集の作業員手配、山荘の掃除や点灯の見分も依頼。消印3.6.16から時期推定。
12	「今回は山鳩をたくさん頂戴し美味しました」	(昭和3)11.6	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:166×260 封:216×85	月末まで京都滞在のため、山荘井戸ポンプの取り外しも依頼。消印3.11.6から時期推定。
13	「上原氏の日当をお渡しくださいました」	(昭和3)12.26	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:202×252 封:209×85	別荘の適宜見回りも依頼。消印3.12.26から時期推定。
14	「軽井沢行き7月20日まで延期につき、電灯水路と掃除の件を後藤氏まで」	(昭和4)6.27	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:202×254 封:218×89	消印4.6.28から時期推定。
15	「本年の紅葉はいかがか」	(昭和4)10.24	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:202×254 封:218×89	逗子へ引き揚げているので、京都峰山駅から到着する車を軽井沢駅でもらい受け、代わりに賞味を願い出ている。鉄道省荷物保管料金切符ほか4枚同封。消印4.10.25から時期推定。

16	「別荘のダリア、野菜の播種その他の件は」	(昭和5)4.23	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:213×182 封:203×79	市村一郎の配慮に対する礼状。消印5.4.24から時期推定。
17	「浅間牧場のツツジ満開の御案内なれど北陸道遊説中につき」	(昭和5)6.26	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:189×221 封:198×79	テオドラ夫人は6月末、尾崎自身は7月中旬に行けることを付記している。消印5.6.26から時期推定。
18	「お手数ながら左記の件をお願いしたく」	(昭和5)9.24	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:196×480 封:203×79	①庭先のブドウ1房送付②小諸駅で購入した青ブドウと同種類1箱送付③山荘にある聴音器送付の3点を依頼。消印5.9.25から時期推定。
19	「一昨夜琉球より帰宅、本年は渡台する意なく」	(昭和5)11.29	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:188×224 封:203×79	市村の子息・一二三の婚礼祝辞と山荘井戸の管理依頼も記載。消印5.11.30から時期推定。
20	「御賢息の結婚祝いに色紙を少々」	(昭和5)12.3	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:188×224 封:201×79	祝い品の手拭い生地3反を製造元から送ることも記載。消印5.12.3から時期推定。
21	「手拭い生地については多少の行き違いがあるようなので」	(昭和6)1.12	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:189×222 封:201×79	消印6.1.13から時期推定。
22	「先般入院の際はわざわざお見舞いください」	(昭和6)4.10	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:174×223 封:217×85	肺炎による慶応病院入院退院時のこと、山荘を貸別荘とするも例年どりの野菜等栽培、テオドラ夫人養生のため軽井沢の病院に滞在することを記述。消印6.4.10から時期推定。
23	「アヅマ牧場のツツジはいつごろ満開ですか」	(昭和6)5.29	尾崎行雄	市村一郎	状1	91×141	逗子の絵ハガキ。消印6.5.30から時期推定。
24	「去る8月末米国到着後、3ヶ月余り各地を遍歴して12月18日英国に到着」	昭和7.2.10	尾崎行雄	市村一郎	状1	87×138	ロンドン市街の絵ハガキに印刷。発信日のみ修正。
25	「先般お話しのお嬢、拙宅勤めの件については」	(昭和7)2.21	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:185×925 封:222×89	市村一郎が紹介した婦女子の東京品川の在宅勤務の可否連絡を乞うている。消印7.10.14の封筒が付くが本状との日付の差がありすぎるので時期未詳。
26	書簡封筒	(昭和7.2.21)	尾崎行雄	市村一郎	封1	217×85	No.25に対応する封筒か。
27	国際郵便宛名書き	昭和7.11.20	尾崎行雄	市村一郎	状1	123×265	小包包装用紙の部分切抜。ハーフペニー&スリーハーフペンス切手(2ペンス分)貼付の横に「秋の絵」と記され、ロンドン滞在中に絵画を送ったものか。シベリア・ウラジオストック経由便。消印から時期推定。
28	国際郵便宛名書き	昭和7.11.22	尾崎行雄	市村一郎	状1	122×245	小包包装用紙の部分切抜。ツーペンス・ハーフペニー&ワンペニー切手(4.5ペンス分)が貼付されたシベリア経由便。消印から時期推定。
29	国際郵便宛名書き	昭和7.11.23?	尾崎行雄	市村一郎	状1	165×245	小包包装用紙の部分切抜。スリーハーフペンス切手2枚(3ペンス分)が貼付されたシベリア経由便。消印から時期推定(29日とも読める)。
30	「当方も人手不足なので、御令嬢には一日も長く留任されたく」	(昭和8)1.23	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:196×1116 封:214×85	雇用した婦女子の結婚を祝いながらもその代人を軽井沢方面で探すよう依頼。消印8.1.23から時期推定。
31	書簡封筒	(昭和8.2.14)	尾崎行雄	市村一郎	封1	228×90	
32	「先般帰国の際は遠路わざわざお出迎えください」	(昭和8)3.12	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:200×262 封:217×84	米英から帰国時の出迎え、鯉甘露煮と信州そばの贈与に対する謝辞と追伸で夏季の軽井沢逗留を予告。尾崎は前年末にテオドラ夫人をロンドンで亡くしている。消印8.3.12から時期推定。
33	「別送した種子を山荘庭園に時々お蒔きくださったたく」	(昭和8)4.12	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:201×261 封:220×84	庭園の手入れは後藤工務所・後藤良造氏と協議し、よい種子があれば栽華園のために使われたいと記載。消印8.4.12から時期推定。
34	「先年お知らせのツツジの名所はいつが見ごろか」	(昭和8)5.11	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:201×261 封:212×85	山荘の手入れかたが鑑賞を希望。またせつかくの往訪が不在と重ならないよう、事前に電報で存否確認を依頼している。消印8.5.12から時期推定。

35	「九輪草120株受領の礼と植付け後の生育ぶり報告」	(昭和8)5.12	尾崎行雄	市村一郎	状1	91×141	逗子の絵ハガキ。消印8.□.□から時期推定。
36	「いよいよ来月1日には避暑に入りたく」	(昭和8)6.26	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:188×222 封:218×84	電燈その他が問題なく使えるよう後藤氏と協議、処置を依頼。消印8.6.26から時期推定。
37	「先般花物や野菜の手入れをしてくれた方に山荘の草刈りなど頼みたく」	(昭和8)7.24	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:190×222 封:214×85	明日、明後日からでも毎日来てもらえるよう通知を依頼。消印8.7.24から時期推定。
38	「後藤氏に別荘応接室の書棚2個を送るよう依頼したので御承知おきを」	(昭和8)9.25	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:176×226 封:226×95	フジ、ツツジの出荷に対する謝辞とともに依頼。消印8.9.26から時期推定。
39	「少なくとも2年は勤務する覚悟のある女中をお遣わしくされたく」	(昭和8)10.30	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:187×225 封:214×85	一昨日の好きな遊覧への謝辞とともに。消印8.10.30から時期推定。
40	「前島氏令嬢本人に異存なければ当方は永く雇用いたしたく」	(昭和8)11.16	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:188×224 封:213×84	写真2枚送付の謝辞とともに雇用給金の希望額を伏せることなく知らせることを依頼している。消印8.11.16から時期推定。
41	「お示しの字句を入れた手拭いは品切れにつき」	(昭和8)12.21	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:188×224 封:214×85	クルミ、ジャガイモ、フキノトウ贈付への謝辞とともに手許に残る他の手拭いの送付を連絡。消印8.12.22から時期推定。
42	「御親戚の青年の就職の件につき」	(昭和9)2.4	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:188×225 封:210×85	目下隠者のような生活で世間とは関係が少なくなり、有効に尽力できそうにないと連絡。消印9.2.5から時期推定。
43	「移植したモミが多く枯れたようです」	(昭和9)5.8	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:188×224 封:215×86	適当な時期に代木を植え、例年より多くトウモロコシのよい種子を蒔かせる依頼。ツツジの見ごろ案内も。消印9.5.9から時期推定。
44	「霧ヶ峰のツツジを見るため同所に1泊し、それから天竜川を下る予定」	(昭和9) 6.14	尾崎行雄	市村一郎	状1	90×140	伊勢大橋の絵ハガキ。消印9.6.14から時期推定。
45	「蔓草の名前連絡の礼」	(昭和9) 9.3	尾崎行雄	市村一郎	状1	88×140	七里の渡しの絵ハガキ。消印9.9.3から時期推定。
46	「お願いした玄米粉は出来次第お送りくだされたく」	(昭和9)10.18	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:190×225 封:212×86	山荘井戸ポンプの凍結破損防止での取り外しと軽井沢の紅葉の見ごろ連絡も依頼。消印9.10.18から時期推定。
47	「来月4日に妙義山紅葉見物にお誘いいただきましたが」	(昭和9)10.31	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:188×224 封:214×86	玉菜、ウズラなど贈付への謝辞とともに11月3日から天竜峡行きで見物不可を連絡。消印9.11.1から時期推定。
48	「立替金22円余りを保管金からお支払い願いたく」	(昭和9)12.22	尾崎行雄	市村一郎	状2封1	状:187×218 封:214×85	昭和9.12.21付け後藤工務所用箋の立替書(217×161)同封。消印9.12.23から時期推定。
49	「玄米粉製造元へ再注文し、多くを発送願いたく」	(昭和10)3.4	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:200×261 封:215×85	No.46の玄米粉残少につき、製造元への再注文と逗子までの多量発送を依頼。消印10.3.5から時期推定。
50	「いつもタラの芽を送っていただき、ありがたく賞味」	(昭和10)5.8	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:189×222 封:212×84	返礼に最近発行の小冊子10部と昨今軍部で問題となっている質問書載せた『時局』を贈呈。さらに『人生の本舞台』は老人たちに読んでもらうよう付言。消印10.5.8から時期推定。
51	「北沢氏の娘、8月で辞したいとのことですが」	(昭和10)8.25	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:199×261 封:210×85	先方に支障なければもう1年、不可能ならば代人が見つかるまでの間、延期を希望するとともに代人の発見を依頼。消印10.8.25から時期推定。
52	「先日紹介のあった婦人はいつごろから勤められる予定か」	(昭和10)9.4	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:200×261 封:214×85	No.51の婦人が長く勤められればよいが、都合もあるだろうからと連絡を依頼。1昨日の日曜日に訪問するも不在のため引き返した、との追伸あり。消印10.9.4から時期推定。
53	「10日は女中が来るので旅行せず。電話か電報で先方に連絡を」	昭和10.9.8	尾崎行雄	市村一郎	状1	89×141	莫哀山荘の絵ハガキ。消印10.9.8から時期推定。
54	「碓氷嶺には紫色のツツジが野生しているようですが」	(昭和11)4.13	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:188×222 封:213×85	先年逗子へいただいたツツジは満開ですが、そちらはいつ開花するかと問い、さらに小さい木で構わないので、2,30本の採集発送を依頼。消印11.4.13の消印から時期推定。

55	「先般依頼のツツジ到着につき」	(昭和11)5.3	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:188×222 封:213×85	菰6包到着の知らせと採集者・会田某への報償を揮毫などでよければと質問し、さらに作業員賃料の連絡も依頼。消印11.5.4から時期推定。
56	「不審紙送付の礼、15日から関西、22日帰宅、25日には諏訪」	(昭和11)10.9	尾崎行雄	市村一郎	状1	89×140	菅平懸釜シャンの絵ハガキ。消印11.10.10から時期推定。
57	「見事なキジ2羽の御寄贈、ありがとう」	(昭和11)11.14	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:191×223 封:211×84	キジ寄贈の礼と上等クルミ1斗の購入希望。さらに預金残額の記憶違いを詫げる。消印11.11.14の消印から時期推定。
58	「伊藤章一から絹地3枚届いたので、揮毫して送る」	(昭和12) 7.8	尾崎行雄	市村一郎	状1	90×141	尾道西国寺の絵ハガキ。消印12.7.8から時期推定。
59	「7月1日山荘到着につき、電燈と風呂の準備を御下命くだされたく」	(昭和13)6.27	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:188×222 封:213×84	新潟池ノ平・楽山荘から到着する1日午前中に電燈の取り付けを、また上下2か所の風呂沸かしを下働き人に命じる依頼。消印13.6.27から時期推定。
60	「きたる5日晴れならば追分に向かうにつき」	(昭和13)11.2	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:198×810 封:197×78	朝8時ころ人力車で出て追分へ境界杭へ打ちに行きたく、先方への通告を依頼。追伸にたくさん頂戴した饅頭を賞味したとある。消印13.11.5の消印から時期推定。
61	「先般お世話いただいた書生の辞職申し出につき」	(昭和14)1.8	尾崎行雄	市村一郎	状2封2	状:194×264 封:214×84	代わりの若書生の人選を依頼するも、話しが立派過ぎて現実に失望しないよう普通の家より苦しい労働となることを注意。仕事の量や質は家政婦・服部文から説明させるとも添えている。消印14.1.8から時期推定。(同封された書生辞表の中身と寸法は割愛)
62	「1年以上勤められる適当な女中の件につき。先年山荘に入れた小石を各色、逗子へ送付の件につき」	(昭和14)4.6	尾崎行雄	市村一郎	状2封1	状:200×264 封:212×84	適任な女性がいて尾崎家の実情を理解し1年以上の勤務を確約できそうなら4月15日以降に來宅を依頼。さらに松茸狩りに同行された際に発見した小石を山荘に送ってもらったが、それら各色を半トンほど逗子邸宅に入れたいので費用の連絡も合わせて依頼。封筒裏面に尾崎筆のメモあり。消印14.4.6から時期推定。(同封の市村筆による砂利土地所有者リスト?の中身と寸法は割愛)
63	「新しい女中の同伴と鴻巣山の砂利送付につき感謝」	(昭和14)4.25	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:200×264 封:213×84	不在中に女中を連れてきてもらったこと、お願いした砂利をたくさん送ってもらったことへの礼辞。さらに今後の砂利輸送の実費や作業に当たった青年たちへの返礼(全集10冊)を問う。昭和12年焼失の風雲閣再建・整備の様子が伝わる。消印14.4.26から時期推定。
64	「3年勤務を決心できる青年を雇用したく」	(昭和14)5.2	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:202×264 封:211×83	砂利と女中の件の礼を述べながら、向こう3年確実に勤務できる青年の履歴書送付を依頼。尾崎家の仕事は「肉体労働」とも忠告。消印14.5.2から時期推定。
65	「五色の砂利、倍の1tお送りくだされたく」	(昭和14)5.6	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:201×264 封:214×84	入手できるならば先日2tの追加を依頼。荷造り・運賃代として前回同様20円を書留で送付するが、不足の場合は立て替えを依頼。消印14.5.6から時期推定。
66	「玄関前に敷いた小石がすこぶる体裁よく」	(昭和14)5.29	尾崎行雄	市村一郎	状2封1	状:265×201 封:212×85	迷惑でなければもう2tの追加を依頼。荷造り・運賃代として前回同様20円を書留で送付するが、不足の場合は立て替えを依頼。消印14.5.29から時期推定。(市村あての小諸町・柳田茂十郎本店領収証の封入があるが中身と寸法は割愛)
67	「小石は急いでおらず、農事の邪魔になっては不本意千万」	昭和14.6.1	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:266×201 封:217×85	多忙中ならば農作業が暇になる時まで砂利採集を延期するよう依頼。ウド・トキなど送付に対する礼辞も。便箋ヨコ書きの初出。便箋右上に<昭14-6-1>とある。
68	「おかげさまで玄関前がきれい」	昭和14.6.7	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:266×201 封:218×85	小石2t送付に対する礼辞と立替金額の通知依頼。便箋ヨコ書きでほとんどがカタカナによる電信文調。便箋右上に<昭14-6-7>とある。

69	「おかげさまで玄関前が立派に」	昭和14.6.12	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:265×201 封:217×84	立替金6円の為替送金連絡。追伸で6月末の山荘行きを予告するとともに浅間山のツツジの見ごろを質問。便箋ヨコ書き文。便箋上部中央寄りに<昭.14-6-12.>とある。
70	「800円受領の上、貴局の郵便貯金証を送付くだされたく」	昭和14.7.27	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:257×191 封:212×84	800円入金した駅前郵便局の貯金証書の送付依頼とともに市村一郎が世話した作業員が立派な滝を築造したことへの来観を要望。便箋ヨコ書き文。便箋右上に<昭.14-7-27.>とある。
71	「明15日の農園行きは8時半の汽車で3人」	昭和14.8.14	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:253×192 封:210×85	農園とは、三岡村(現小諸市)で柳澤源兵衛が経営した果樹園のことか。また<ソウマはサンツカへあり>とあり、昭和12年に結婚した娘雪香の夫・相馬恵胤は同行不可となった。便箋ヨコ書き文。便箋中央上に<昭.14-8-14.>とある。消印14.9.21の越後池ノ平発の封筒が付くが、時差が大きく理由不明。
72	「新潟池ノ平はきのうも今日も雨でうっとうしく」	昭和14.9.21	尾崎行雄	市村一郎	状1	222×188	捺印した別紙(内容不明)同封の連絡と妙高高原の気候を通知。便箋ヨコ書き文。便箋左上に<池ノ平山荘:14-9-21.>とある。
73	「長野経由で山田温泉の紅葉見物に行きますが、一緒にいかがか」	(昭和14)10.14	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:265×201 封:218×85	柳澤源兵衛からの果樹贈呈に対する礼辞伝達を依頼。16日8:30上野発、長野経由山田温泉泊の予定を記して紅葉見物へ誘う。帰路には碓氷峠の紅葉も、と親交の度合いが理解される。便箋ヨコ書き文。便箋中央上に<ヅシ:10-14.>、消印14.10.14から時期推定。
74	「碓氷峠観楓後の病気に驚き入り」	(昭和14)11.17	尾崎行雄	市村一郎	状3封1	状:263×201 封:213×84	自分が誘った紅葉見物の後に市村が罹病したことを伝聞し、静養を懇請している。加えて、①胸像を切望する清水某のために1個を分贈すること②女中・奥原むつ江の慶事のため喜んで辞職させるが、奥原父君にも伝えて後任を探すこと③来年早々に入隊する小林書生の後任も農業青年から手配すること、の3点を依頼。便箋ヨコ書き文。便箋中央上に<ヅシ:11-17.>、消印14.11.18から時期推定。(同封された奥原家からの退職願の中身と寸法は割愛)
75	「追分の樹木伐採や検事臨検の立会いなどの配慮に感謝」	(昭和14)11.26	尾崎行雄	市村一郎	状2封1	状:181×221 封:210×84	追分の土地に関し、東京電力と何かトラブルがあったようで地元警察に検事(刑事?)を派遣させるよう依頼。東京品川も今朝から少し寒くなったと追伸。消印14.11.26から時期推定。
76	「先般紹介の山口少年は当家には不向きにて」	(昭和15)1.23	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:288×220 封:229×95	今月限りで山口少年を解雇したい。ついには26日に小林書生が入隊で逗子を去るので、その際に少年を連れて行かせるのが安全策と取り計らいを打診。便箋ヨコ書き文。便箋中央上に<ヅシ:1-23.>、消印15.1.23から時期推定。
77	書簡封筒	(昭和15.6.12)	尾崎行雄	市村一郎	封1	206×84	差出人名は活版印刷。
78	「題字書き入れ済みにて拙著お渡しくださいたく」	(昭和15)8.18	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:200×254 封:200×85	昨日依頼された題字を揮毫した著書の受け渡しを依頼(渡し先不明)。消印15.8.18から時期推定。
79	「面倒なことさっそく取り計らいくださり、クリなど多くの贈呈にも感謝」	(昭和15)9.29	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:192×249 封:204×79	聴音器の無事到着にも礼辞を述べ、追伸で手拭い代金の残余が出たので後日色紙5枚を代送するので笑納を依頼。消印15.9.30から時期推定。
80	「先日は上田まで同行、ありがとう」	(昭和15)10.25	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:279×215 封:250×94	上田・別所温泉への同行礼辞と都合により草津・渋川経由で帰京したことの案内。加えて、①碓氷峠紅葉の見ごろ②茶壺を鉄器で煮ることの可否、を問う。便箋ヨコ書き文。便箋中央上に<ヅシ:10-25.>、消印15.10.25から時期推定。

81	「恐縮ながら下記のこと依頼したく」	(昭和15)11.22	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:280×215 封:228×95	①上等のクルミ1斗でも2斗でも②極小の鎌2丁の製造(新軽井沢の鍛冶屋に以前特注したことあり)、2件とも代価を伝えるよう依頼。便箋ヨコ書き文。便箋中央上にくヅシ:11-22.>、消印15.11.22から時期推定。
82	「別紙の二税、町役場へ納め願いたく」	(昭和15)12.18	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:279×215 封:210×84	馬小屋改造に伴う税と町の税(種別名称不明)の代人払いを依頼。追伸で柳澤(源兵衛)父子の来訪を期待。便箋ヨコ書き文。便箋中央上にくヅシ:12-18.>、消印15.12.18から時期推定。
83	「軽井沢移住、今月26日に早めたく」	(昭和16)6.4	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:266×192 封:211×85	7月1日を予告しておきましたが、6月26日に早めたいので、後藤良造氏とも相談の上、例年どおり井戸替えや内外の清掃など全ての準備を依頼。さらに雇用したい下男の紹介(事情によっては夏限定でも)も依頼。便箋ヨコ書き文。便箋中央上にくヅシ:6-4.>、消印16.6.6から時期推定。
84	「堀内氏からブドウをたくさん頂戴、お礼願いたく」	(昭和16)10.31	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:266×193 封:206×84	堀内某への礼辞伝達と土屋大次(ママ・治)郎への農閑期就労交渉の依頼。就労交渉には手当金額の事前決定があれば好都合とも。便箋ヨコ書き文。便箋右上にく10月31日.>、消印16.11.□から時期推定。
85	書簡封筒	(昭和17.1.11)	尾崎行雄	市村一郎	封1	211×83	楽山荘の封筒利用。
86	「屏風調製の材料購入には同封の200円をお渡し願いたく」	(昭和17)2.2	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:288×220 封:212×83	小林義雄氏(えびすや旅館主人)に注文した屏風の件で、代金支払いや発注仕様などを願ひ出ている。便箋ヨコ書き文。便箋中央上にく2月2日>、消印17.2.2から時期推定。
87	「2枚屏風は2個とも行輝まで送りたいだきたく」	(昭和17)2.6	尾崎行雄	市村一郎	状2封1	状:266×192 封:212×83	6枚屏風1個のみ取り置き、2枚屏風は婚礼祝い品なので揃わないと困ると通知。市村から尾崎へ当てた封筒裏を別紙(175×11~12.5)として、この紙質で色紙や半紙を作る所を問う。便箋ヨコ書き文。便箋右上にく2月6日>、消印17.2.7から時期推定。
88	「別送の花種を庭の各所に蒔かせくだされたく」	(昭和17)3.29	尾崎行雄	市村一郎	状2封1	状:266×201 封:213×84	女中同伴での上京への礼辞とともに北海道産の種子が軽井沢の気候に最適と考えて播種を依頼。便箋ヨコ書き文。便箋中央上にくヅシ:3-29.>、消印17.3.29から時期推定。
89	書簡封筒	(昭和17.9.□)	尾崎行雄	市村一郎	封1	197×83	
90	「軽井沢の家具屋にトチの木の三ツ組小机を注文したく」	(昭和17)12.24	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:252×191 封:216×83	3品(内容不明)送付の礼辞とともに清水商店へ用材を示した小机(タテ1尺7.8寸×ヨコ9寸ぐらい)の普通品発注を依頼し、代価と楽山荘までの送料を直接連絡することも依頼。便箋ヨコ書き文。便箋中央上にく楽山荘:12月24日.>、消印17.12.24から時期推定。
91	「病気の由、別荘のことは他の人に任せるので放念くだされたく」	(昭和18)2.5	尾崎行雄	市村一郎	状2封1	状:264×184 封:198×96	1日付けの手紙で重病と知り、無理なお願いをしたことを陳謝するとともに加療全快を懇請。さらに清水某から到来のクルミで教えてもらったクルミ湯を毎日飲用するたびに旧事の親交懐古を伝達。風雲閣用箋ヨコ書き文。用箋右上にく2月5日.>、消印18.2.6から時期推定。
92	「農工銀行からの借入については、この際取り運びしたく」	(昭和18)2.26	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:187×217 封:214×86	先年市村が世話した農工銀行(みずほ銀行の前身)からの借入運用について銀行側への打診を依頼。今回の選挙では多少費用を必要としたことを弁明。第21回衆院総選挙(いわゆる翼賛選挙)の苦戦を通して、選挙区民でない市村に精算資金調達の相談をもちかけている。伊勢・城田村からの発信で、書簡日付2.26と消印18.4.16とで時間差があるが、消印から時期推定。

93	「秋冬の間、別荘を貸し出たく幹旋を願う」	(昭和18)9.15	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:275×207 封:216×84	莫哀山荘借り受け人幹旋依頼とともに市村家親戚からクルミの買い取りと楽山荘までの回送も依頼。便箋ヨコ書き文。便箋中央上にく楽山荘:9月15日.>、消印18.9.□から時期推定。
94	「今回の上京日時は急用のため24日を変更とのみ」	(昭和18?) 10.26	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:252×191 封:206×84	送迎の労を省こうとすることで、23日繰り上げを知らせないのは自分の発案であって、服部文の落ち度ではないと通知。No.93の内容と違和感があるため、年次が違うか。便箋ヨコ書き文。便箋右上にく10月26日.>、消印18?.10.26から時期推定。
95	書簡封筒	(昭和19.1.5)	尾崎行雄	市村一郎	封1	243×94	衆議院の封筒を再利用。
96	「別荘の借り受け人はどんな人物にや」	(昭和19)1.31	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:286×209 封:200×84	立替の小切手は小諸支店から不足通知があり500円送金済みと陳謝するとともに莫哀山荘借り受け人の見分連絡を依頼。便箋ヨコ書き文。便箋右上にく1月31日.>、消印19.1.31から時期推定。
97	「私の裁判事件も5月9日の法廷で終了しそう」	(昭和19)4.28	尾崎行雄	市村一郎	状2封1	状:168×243 封:200×83	不敬罪事件裁判が予定どおり終結すれば5月10日ないし11日には池ノ平帰参を通知するとともに味噌欠乏から信州の味噌(山吹味噌のことか)の入手手配と旧軽井沢での小楊枝一束の購入を依頼。消印19.4.28から時期推定。
98	書簡封筒	(昭和19.7.5)	尾崎行雄	市村一郎	封1	214×84	切手貼付なし。
99	「昨年注文の倍のクルミを買い受けたく」	(昭和19)8.8	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:173×256 封:216×85	クルミ1箱寄贈への礼辞とともに楽山荘経営者・佐々木久二と折半するため倍量の購入を通知。楽山荘からの発信で、消印19.8.8から時期推定。
100	「買い求めの小楊枝の代金は小額なりしか」	(昭和19)11.18	尾崎行雄	市村一郎	状5封1	状:82×651 吟紙:275×198 封:213×84	多数の珍品寄贈への礼辞と小楊枝の金額通知依頼。別紙4枚にて愛国至誠からの高吟を献呈するも内容に注意。楽山荘からの発信で、消印19.11.18から時期推定。
101	「令夫人逝去に際し、悼歌を受領されたく」	(昭和19)11.24	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:68×243 封:220×92	市村夫人の弔間に行けなかったことへの謝辞とともに追悼歌の献呈について問い合わせている。楽山荘からの発信で、消印19.11.25から時期推定。
102	「毎年の朝鮮クルミをいつもの分量で配慮願いたく」	(昭和20)7.24	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:166×244 封:200×84	クルミの受け取りは差し向けるとも伝えている。楽山荘からの発信で、消印20.7.25から時期推定。
103	「年末から軽い風邪でしたが、今は全快」	(昭和24?)1.6	尾崎行雄	市村一郎	状2封1	状:265×184 封:230×96	年賀状への礼辞と夏季軽井沢滞在の予告、新春吟歌の披露(別紙か)を順に。追伸で、「土」の字を十と一に分解し、その年の年齢から「九土翁」と名乗るつもりと言及。「九土」は「九泉」の近所で冥土の意味ありとし、死期を予感してか弱気になっている。消印20.□.□と読めるが、追伸内容から24年と考えた。
104	「アツモリ草1箱寄贈の礼と近日参上の告知」	(年不明) 6.9	尾崎行雄	市村一郎	状1	91×141	逗子の絵ハガキ。消印年次判読不能。
105	「林間の離れでは盗難被害なくうれしく」	(昭和□)12.27	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:206×252 封:210×86	莫哀山荘の離れには盗難にあう物は無いとしながらも無被害を喜ぶとともに年初10日ごろから伊勢旅行で1週間不在を予告。消印□.12.27で年次不明。
106	「本会議の傍聴券2枚贈呈するも開催の有無を確認のうえ上京されたい」	(昭和□)7.2	尾崎行雄	市村一郎	状1	189×245	7月5日開催予定の国会本会議傍聴につき連絡。前日前々日には軽井沢帰着のため開催有無に注意するよう促している。
107	「私の選挙は七割程度当選の見込みにて」	(昭和□)4.15	尾崎行雄	市村一郎	状1	188×245	市村が依頼事にとっても心配したことをテオドラ夫人から聞き及び、当選予想と当選するまでの借金の必要の無いことを告げている。テ夫人在日中の昭和6年以前の発信か。

108	「九条武子夫人の軸は昨秋から今夏にかけて盗まれしか」	(昭和□)9.14	尾崎行雄	市村一郎	状1	199×220	歌人九条武子の掛軸は当地(品川?逗子?池ノ平?)に無いと告げながら九条作の一首と歌讀、小林一茶の二句を載せた軸、さらに数年前失くした円山応挙の画を列挙している。No.105の内容に関係ありか。
109	「井戸回りの工事費73円余りを郵便為替にて送金」	(昭和□)12.26	尾崎行雄	市村一郎	状1	188×225	冬季留守番の件は妻と話し合って通知したいが、実直な人の存在を打診。テ夫人が療養渡米する昭和6年5月以前の発信。
110	「岩村田の農学校は私の講演を望みたるや」	(昭和□)8.29	尾崎行雄	市村一郎	状1	199×253	種馬所の見物がてら出張は可能で、できれば9月4、5日ごろが都合よいとし、乗馬の許可も含めて打診を依頼。
111	「拙著少々献呈するにつき篤志家あらば分与されたく」	(昭和□)5.25	尾崎行雄	市村一郎	状1	199×253	多数必要な場合の申し出と到来物菓子の賞味も告げる。
112	「当地に別条なく、ただ物資は欠乏」	(昭和□)9.25	尾崎行雄	市村一郎	状1	283×220	市村に依頼の件が良い結果となったことも伝える。便箋ヨコ書き文。便箋右上に<9月25日.>とある。
113	「小林義雄に6枚屏風1個を作らせたく」	(昭和□)1.11	尾崎行雄	市村一郎	状1	264×200	いたって健康で26日まで池ノ平滞在を告げながら冬季に屏風製作が可能か打診。No.82・83との関連ありか。便箋ヨコ書き文。便箋中央上に<楽山荘:1月11日.>とある。
114	「頂戴した清酒の銘柄と醸造元を知りたく」	(昭和□)6.24	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:281×218 封:216×83	入手困難な清酒なれども月2升ほど購入を希望するとともに娘・品江の滞在中の世話を依頼。追伸で池ノ平での療養継続を告げる。便箋ヨコ書き文。便箋右上に<楽山荘:6月24日.>、消印は不鮮明。
115	「別荘貸渡しの件はイタリアの参事官に来年1年間貸与を約束」	(昭和□)12.17	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:272×218 封:221×85	貸出しに伴う片付けは品江が行うが、人手不足と不慣れのため援助を要請。その様子と立替経費の連絡も依頼。No.86・87との関連ありか。便箋ヨコ書き文。便箋中央上に<楽山荘:12月17日>とある。
116	「妻を説諭快諾した上で土屋氏へは正式に返事したく」	(昭和□)1.22	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:198×1212 封:209×84	19日帰京で妻子は逗子滞在中のため手紙拝読の遅延を陳謝するとともに土屋某の雇用?についてテ夫人の納得が先決と通知。テ夫人存命中の内容から土屋某は大治郎ではない。封筒にはあて名・差出し名のみ記載で、郵便ではない。
117	「明朝、追分へ参るつもりだが見合わせるか」	(昭和□)11.4	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:88×1032 封:205×83	6日朝に軽井沢を去るのでその前に追分の老人を訪ねたいが先方へ不案内ならば見合わせたい。連絡の有無についてこの手紙の使者へ伝言を依頼。
118	「義父死去につき17、18日ころまでは帰沢できず」	(昭和□)10.14	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:191×1265 封:210×85	義父とは尾崎三良のことか。不在中の猟場のことは望月某の命令を聞くよう伝言、留守番の少女ユキに必要に応じ2、3円の立て替えを依頼。また15日までの書状電報の品川回送と16日以後の分の別荘留め置きも依頼。封筒にはあて名・差出し名のみ記載で、郵便ではない。
119	「令夫人逝去に際し、哀悼の一書を謹呈したく」	(昭和□)9.30	尾崎行雄	市村一郎	状1	241×329	10月1日告別式への欠礼も通知。大石書店製12行野紙を使用。
120	「山荘空地に野菜を多く植え付け、世話をしていただきたく」	(昭和□)1.24	尾崎行雄	市村一郎	状2封1	状:264×186 封:212×88	6月移住を控え農作物ついて心配し、後藤良造転業の伝聞から後継人の紹介を依頼。風雲閣用箋ヨコ書き文。用箋右上に<1月24日>、消印不鮮明だが、内容からNo.86に先行するか。
121	「せっかくの依頼に対し、効果のある尽力ができず残念」	(昭和□)4.25	尾崎行雄	市村一郎	状2封1	状:253×184 封:199×90	「長野の局長」とあることから郵便局関係?の依頼対応ができなかったことへの陳謝とともに病状回復を祈願。風雲閣用箋ヨコ書き文。用箋右上に<4月25.>、消印不鮮明。

122	「カンナの花を贈りくださりありがとうございました」	(昭和□)5.3	尾崎行雄	市村一郎	状2封1	状:177×214 封:208×85	4月2日出発の四国巡回から帰宅したところで、頂戴のカンナは山荘の門から玄関までの日当たり、あるいは既舎裏などの適当な場所に植えたいので指示を依頼。雑務山積により5月中は逗子に滞在とも通知。消印□.5.3(半欠)とあるも年次不明。
123	「私の全集出版につき、普及方配願いたく」	(昭和□)5.15	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:235×318 封:236×98	尾崎年来の親友・清藤幸七郎により著作、演説、詩歌等を収めた全集が出版されるに及び、そのPRを入院先の慶大病院から懇請している。追伸で退院真近を予告している。あて名以外は自筆印刷で、不特定多数に発信したものと思われる。出版関係者?・大前豊哲の礼状3枚が同封されており、封筒筆跡が明らかに尾崎でないため代理発信の書状と理解できよう。消印不鮮明ながら、慶大病院2回目入院の昭和6年5月の発信か。
124	「九輪草百本、逗子まで送られたい」	(昭和□)5.7	尾崎行雄	市村一郎	状1	167×258	山荘庭園から大きめの九輪草100本を掘らせて逗子駅経由で風雲閣までの発送と注文済み浅間バス1tの運賃回答を依頼。内容からNo.62の後発書簡とすると、昭和14年5月の発信か。
125	「杉浦夫人の斧正を求めくださるべく」	日付なし	尾崎行雄	市村一郎	状1	165×246	市村は沓掛に別荘を持つ杉浦非水・翠子夫妻とも親交があり、尾崎は翠子女史と短歌交流していたことが想起できる。斧正とは斧政の誤字と理解でき、添削の仲介を依頼。また池ノ平の雪も溶け、スキーが不可能になったと通知している。晩年、健康維持のために始めたスキーへの関心が伝わる。半切した罫紙を利用。
126	「小林、児玉らのことは来示に従いたいと思うが」	(昭和□)7.31	尾崎行雄	市村一郎	状2封1	状:251×190 封:212×85	書生ら使用人の給金問題に関し、尾崎が対応試案を述べている。問題の詳細を記した差出人不明(執事?)の文書が同封されている。また、別包で病氣見舞いに自分で詰め直した到来菓子を贈呈。封筒にはあて名・差出し名のみ記載で、郵便ではない。
127	「杉浦女史の都合が合えば一度引き合わせ願いたく」	(昭和□)7.28	尾崎行雄	市村一郎	状2封1	状:202×264 封:211×84	杉浦翠子の訪問、歌集恵生に対しての欠札を詫びるとともに7月29日から3日間で都合が合えば昼食に招待したい旨と市村の同行を依頼。追伸で丁寧な詫びと歌集への感動を告げる。No.125に関連するか。封筒にはあて名・差出し名のみ記載で、郵便ではない。
128	「令息の履歴書を収受するも時節柄たいへん困難かと」	(昭和□)11.4	尾崎行雄	市村一郎	状1	222×164	市村一二三の就職先斡旋依頼であろうか、時期的にどこでも減員していて非常に難しい状況を伝えながらも心当たりへの問合せを確約。今夕からの北海道出張も付言。
129	「友人2,3名に上田の養魚池を見せたく」	(昭和□)8.17	尾崎行雄	市村一郎	状1封1	状:257×165 封:213×85	昨年、柳澤果樹園に案内した友人たちが8月20日に再来するため案内を希望するとともに長谷川某の都合を質問。封筒にはあて名・差出し名のみ記載で、郵便ではない。
130	「長年の親友・市村一郎君に何とぞ面会くださるべく」	(昭和2)10.9	尾崎行雄	松平頼寿	状1封1	状:167×258 封:148×97	追分の跨線橋築造の相談につき、付近の土地所有者である伯爵へ市村を「長年の親友」「温厚篤実の人物」として紹介している。封筒にはあて名・差出し名のみ記載で、郵便ではない。倉賀橋築造の経緯から時期推定。
131	「屏風輸送についてはありがたく感謝」	(昭和18)5.4	尾崎彦磨	市村一郎	状2封1	状:256×181 封:205×85	三重の跡取りから父行雄への配慮と問題のなかった屏風輸送に対する礼辞。以後の放念も依頼。消印18.5.5?と封筒裏面日付スタンプ18.5.4から時期推定。
132	年賀状	昭和10.1.1	尾崎行輝	市村一郎 市村一二三	状1	141×92	仏語賀詞と自作短歌を印刷。信州追分と東京馬込町の住所併記。
133	「御返書に深謝し、今夏も何かとお世話になります」	(昭和15)5.25	尾崎行輝	市村一郎	状1	141×91	行雄4男・行輝によるスキーヤー尾崎号堂先生の絵ハガキに自作短歌の添え書き。消印15.□.□から時期推定。

134	「家父は逗子にて毎日元氣」	(昭和21)6.17	尾崎行輝	市村一郎	状1封1	状:166×243 封:200×84	行雄の様子を伝えながら逗子転居通知済みにもかかわらず小切手入金が駅前郵便局指定で困惑しているため受取と送金を依頼。消印21.6.19から時期推定。
135	「父も近頃は逗子にいて、毎日元氣に来客と談論風発」	昭和21.7.5	尾崎行輝	市村一郎	状1	139×91	No.134との関連か行雄の近況と立替金の札を伝える。ハガキ消印21.7.6から時期推定。
136	「歯医者で紹介と玄米コーヒーの分与を願いたく」	(昭和□)8.19	尾崎行輝	市村一郎	状1	197×225	追分に暮らす行輝から自宅中への歯医者(新軽井沢で良質な)の紹介と行雄へ贈呈し子どもたちに人気の玄米コーヒー一粒分与を依頼。
137	「今年の軽井沢行きはたぶん5月ころに」	(昭和13)2.9	服部 文	市村一郎	状3封1	状:220×152 封:201×84	逗子風雲閣消失後、娘婿・佐々木久二郎に逗留する尾崎の様子を伝えながら訪軽の時期を示すも口外禁止を依頼。東京駒澤町・詩歌研究会雲泥社の原稿用紙を使用。消印13.2.9から時期推定。
138	「私にまで新築記念品を恵送くださりありがたく」	(昭和13.3.4)	服部 文	市村一郎	状1	140×90	後藤良造へのあいさつ状、佐々木久二が雇用希望する農業青年などの件を列記し、尾崎の逗子滞在日数も伝える。ハガキ消印から時期推定。
139	「裁判のことは5月15日以降に始まると思われ」	(昭和18.4)21	服部 文	市村一郎	状2封1	状:257×183 封:200×85	3月末からのカゼ全快するも池ノ平滞在が長引いていること、莫哀山荘の畑の世話に適切な人に任せたいことも列記し、尾崎が不敬罪事件上告審理の行方を消極的に語っていることも伝える。消印18.4.21から時期推定。
140	「先生の裁判事件はやり直しにて実に面倒」	(昭和18)6.30	服部 文	市村一郎	状2封1	状:252×182 封:212×84	不敬罪事件での東京地裁原判決破棄、大審院再審の連絡をはじめ、尾崎の健康具合と池ノ平の天候不順を伝える。消印18.7.1から時期推定。
141	「代わりの女中をなるべく早く紹介くださいたく」	(昭和18.12.10)	服部 文	市村一郎	状4封1	状:231×178 封:203×84	市村が斡旋し風雲閣に就労していた女中が事情により退職することを尾崎が許可し、至急に代替者の紹介依頼を伝達。合わせて佐々木邸への玄米粒送付を依頼。消印18.12.10から時期推定。
142	「苛烈な戦局の秋、奥様を亡くされた心中を察するに」	昭和19.11.13	服部 文	市村一郎	状2封1	状:216×155 封:202×84	佐々木家の手伝いで疎遠となり、尾崎から49日忌のことを伝聞したことから欠礼に対する詫言と香料を送付。消印は18.11.25。
143	「本日、清水様から見事なカシクルミが到着」	(昭和19.12)24	服部 文	市村一郎	状3封1	状:244×166 封:200×84	清水義晴ほか2人から十分な量のクルミが届き、荷造り袋の返送と代金連絡依頼を告げる。池ノ平の天候と郵便事情も通知。清水は市村の親類で、滋野村(現東御市)の在。クルミは同村の名産。No.93・99・102と関連ありか。消印は19.12.26。
144	「食料の世話人様への代金、いかにすべきや」	(昭和20.1)5	服部 文	市村一郎	状1封1	状:269×385 封:281×108	清水義晴や長岡某からのクルミなど食料送付に対する代金支払いの相談。合わせて池ノ平70年来の豪雪を通知。消印20.1.5から時期推定。
145	「病氣全快とのことおめでたく」	(昭和23)5.9	服部 文	市村一郎	状2封1	状:229×170 封:190×83	市村の快癒を喜ぶとともに自分の体調や莫哀山荘の畑のこと、さらに市村依頼の長野通信局幹部照会の件について通知。消印23.5.9から時期推定。
146	「池の平農園への従業員青年につき配慮いただきありがたく」	昭和13.3.2	佐々木久二	市村一郎	状2封1	状:245×189 封:220×90	佐々木が経営する農園への従業員斡旋につき市村から回答があったことへの謝意を述べるが、茨城県友部で農場経営する知己からの紹介があり、そちらを採用したこと連絡。合わせて市村照会の雇用条件については後日連絡。消印は13.3.3。
147	書簡封筒	(昭和□)4.10	浦川政市	市村一郎	封1	205×86	浦川は尾崎家執事あるいは東京罌堂会事務所関係者か。消印□.4.10から時期推定。
148	「別荘のお嬢様方はいかにお過ごしでしょうか」	(昭和6)1.24	尾崎家執事	市村一郎	状1封1	状:83×717 封:216×85	テ夫人からの要望で2人娘の近況と市村家の家事手伝いの可否を照会している。消印6.1.26から時期推定。

149	「先生近く渡米につき今までの立替金を請求願いたく」	(昭和6)8.4	尾崎家執事	市村一郎	状1封1	状:222×148 封:215×85	莫哀山荘の手入れなどの経費精算と請求を依頼。消印6.8.4から時期推定。
151	「令息婚儀のために色紙23枚と手拭い生地3反を献上したく」	(昭和□)12.3	尾崎行雄	市村一郎	状1	257×358	婚禮引き出物に添える品書きか市村が尾崎からの贈呈を証明するために印刷配布したものと思われる。両面印刷。
152	弔電礼状	昭和29.10.13	堤 康次郎 尾崎行輝	市村一二三	状1	141×91	印刷ハガキ。故尾崎行雄の衆議院葬に際して。
153	「I have removed to this place from Hongo.」	明治44.8.26	クロダ・アキラ	尾崎英子	状1	143×91	＜東京市長尾崎行雄君＞の絵ハガキ。あて名のみ漢字。
154	「先生邸は昨年未全焼しましたが、お体には何の支障もなく」	昭和13.1.5	名古屋罌堂会	市村一郎	状1	140×90	印刷年賀状。あて名筆跡は三輪信太郎氏か。

Ⅱ 電 報

番号	資料名	時期	作成	受取	形態・数量	寸法(mm)	内容・備考
1	「コヤマシ ミンセイウトニイルトノセツアリトメルコトデキヌカ」	昭和3.2.25	尾崎行雄	市村一郎	状1	220×146	「コヤマシ」とは小諸の小山邦太郎(洋画家・小山敬三の長兄で衆・参院議員、初代小諸市長、山吹味噌社主)のこと。理由不明ながら民政党入党への危機感を表明。市村の上京を催促する2月6日付け小山書簡も残る。
2	「アスアサセジ ノキシヤニテユクゴトウシニモ オシラセワコウ」	昭和3.6.18	尾崎行雄	市村一郎	状1	220×146	「ゴトウシ」とは後藤工務所・後藤良造のことと思われる。
3	「二七ヒ〇ジニフンニツク」	不詳	尾崎行雄	市村一郎	状1	210×145	消印なく時期不詳。電報送達紙の印字。
4	「コノチデ カシユサ ソダチマセウカ ヤナギサワサンノカンテイヲコイタイガ ニハヒマデノアイダニ オフタリデラクサンソウヘオイデカ ネガワレマセウカ」	昭和14.9.23	尾崎行雄	市村一郎	状1	212×123	新潟池ノ平での果樹栽培可否についての鑑定要請。「ヤナギサワサン」とは三岡村柳澤農園主の柳澤源兵衛のことと思われる。
5	「アスヒルカルイザワトル」	昭和17.6.2	尾崎行雄	市村一郎	状1	216×122	列車の通過案内で、軽井沢下車予定がなく停車時間中に用務を済ませたい知らせか。
6	「アスヒルカルイザワトル」	昭和17.12.10	尾崎行雄	市村一郎	状1	210×120	No.5に同じ。
7	「アスヒルカルキザワトル」	昭和18.5.23	尾崎行雄	市村一郎	状1	210×120	No.5に同じ。

Ⅲ 書 画

番号	資料名	時期	作成	受取(為書)	形態・数量	寸法(mm)	内容・備考
1	「栽華園」	(昭和13?)	尾崎行雄	市村一郎	扁額1	本紙:323×1214 額:450×1518	栽華園とは、駅前郵便局舎裏に広がる市村家敷地庭園の見事さに対して尾崎が命名したもの。陸軍大将・福島安正も書簡の中で「美事ナル松樹庭園」と絶賛。為書きに「御新居落成書贈」とあることから、昭和12年12月27日の落成日以降に贈呈されたものか。
2	「栽華園」	(昭和17?)	尾崎行雄	市村一郎	刻字1	311×991	墨・朱墨で彩色。裏面に「葛刀」と刻まれるのは彫り師の呼び名か。額面の「八三翁罌堂」から時期推定。
3	「栽華園」	(昭和17?)	尾崎行雄	市村一郎	書1	322×900	No.2のオリジナルで、No.2は寸分違わず転写作成されている。
4	「風雲閣上望風雲 滄盟背信何紛々 西欧驕児弄威福 東亞庸人煽妖氣 擁書萬卷夢孤鶴 歷任三朝伍鷄群 喜寿加七舊明滅 衰殘尚学救時文」	昭和16 秋	尾崎行雄	市村一郎	屏風1	本紙右:1348×661 本紙左:1346×662 屏風:1747×1745	七言律詩。翌年発表「偶感」の原案か。83歳直前の作で、池ノ平へ移る前に贈呈されたものと思われる。「風雲閣から世を眺めるに、西欧もアジアも乱れに乱れている。年老いて日々を生きる民衆の一人に成り果てているが、この国を救うための文が書けるようもっと学んでいきたい。」が文意か。
5	「上下一株幹生枝」	(大正6 夏)	尾崎行雄	市村一郎	掛軸1	本紙:1335×330 表具:1780×435	本紙天部に「立太子紀年」の3銭と1銭5厘の切手が貼付され、軽井沢局の記念スタンプをそれぞれ押印。No.6との対幅。

6	「君□□斬□□水」	大正6 夏	尾崎行雄	市村一郎	掛軸1	本紙:1333×330 表具:1780×434	本紙天部に「立太子紀年」の10銭切手が貼付され、軽井沢局の記念スタンプを押印。No.5と対幅になり、合わせた文意は昭和天皇の立太子を記念して天皇と国民の関係性を表現したものか。
7	「君に涙す 老いて後 妻に別追縁 かなしみは身に知る可らず」	(昭和19)	尾崎行雄	市村一郎	掛軸1	本紙:1303×323 表具:1885×425	「市村令夫人の長逝□吊ひて 八七翁行雄」の添え書きあり。市村一郎夫人・るいの逝去に際して献呈された書を簡素な軸装に仕上げたもの。書簡No.101に同封された「御悼歌」と思われる。
8	「伝家宝刀托向處 百年去計□出生」	不詳	尾崎行雄	市村一郎	掛軸1	本紙:1260×432 表具:1465×570	絹本。

IV 写真

番号	資料名	時期	作成	受取	形態・数量	寸法(mm)	内容・備考
1	街頭に立つ尾崎行雄	大正14	—	—	1	137×89	外套・山高帽・手袋にステッキのいでたち。後方自動車の運転手と助手がアジア人(日本人?)のようなので国内(東京?)でのショットか。裏面に市村一郎が毛筆で「尾崎行雄先生 大正十四年御歳 六十七歳」、表面に市村一二三が鉛筆で「The Mayor of Tokyo Mr.Y.Ozaki」(時期錯誤?)と記入。革新倶楽部脱会前後の容姿。
2	尾崎行雄肖像	昭和2.9	—	—	1	写真:178×130 台紙:275×225	アルバム?から切り取ったものを台紙に貼付。台紙右側に「贈 市村君 昭和二年九月 行雄」と書き入れている。
3	築造中の倉賀橋	(昭和3)	—	—	1	147×207	尾崎は写っていないが、命名した跨線橋の工事現場のショット。左の看板に「尾崎行雄氏拝口」と見える。
4	竣工した倉賀橋	昭和3.2.4	—	—	1	139×202	No.3との一連で、完成記念のショット。尾崎は不在。
5	登山する尾崎行雄 その1	不詳	—	—	1	43×56	濃色のジャケットにネクタイ・ニッカボッカ・中折帽・ステッキ姿で山登り中の尾崎。山名は不明。
6	登山する尾崎行雄 その2	不詳	—	—	1	43×56	No.5のアングル違い、または撮影場所違いか。撮影日は同一であろう。
7	娘婿らとの登山にて	不詳	—	—	1	44×57	三女雪香の夫・相馬恵胤(陸奥中村相馬家第32代当主)らとの登山で、No.5・6と服装が同じ。
8	山小屋の外にて	不詳	—	—	1	43×56	淡色のジャケットにニッカボッカ・ゲートル巻き姿での集合写真。他の3人の中に市村は不在。山名は不明。
9	娘婿とその母と尾崎行雄	不詳	—	—	1	43×57	相馬恵胤とその母・邦子(孟胤の妻で徳川慶喜弟・土屋挙直の娘)との3ショット。No.7と同装で、休憩中の場面か。
10	相馬邦子と尾崎行雄	不詳	—	—	1	43×56	No.9と同装で、休憩施設屋内での2ショット。
11	青年と市村一郎と尾崎行雄	不詳	—	—	2	110×157	白樺の木々をバックにした3ショット。中央の青年については詳細不明。木立の雰囲気から莫哀山荘庭園で撮影したか。1枚は3人部分がトリミングされた完品で、もう1枚はオリジナルであろうが下半部がランダムに切り取られた残欠。
12	ニッカボッカの尾崎行雄	不詳	—	—	1	143×55	集合写真であろうか、向かって右端に尾崎が写る。尾崎部分を残して直線に切り取られている。
13	中屋敷の講演会にて	不詳	—	—	1	222×280	講演会終了後の記念写真か。尾崎を前列中央に市村他32人が写る。「尾崎先生講演□」「中屋敷會□」の看板と尾崎の扁額「忠誠一貫」が見える。中屋敷は、滋野村(現東御市)の地区名と思われる。

14	松茸狩りにて その1	不詳	—	—	1	110×154	市村随行による二女品江を伴っての松茸狩り行でのショットで、ほかに15,6人が写り込む。品江の年格好から大正7,8ころか。場所は上田あたりか。
15	松茸狩りにて その2	不詳	—	—	1	93×138	昼食時あるいは休憩時の林間でのショット。品江の飲食姿が写る。
16	松茸狩りにて その3	不詳	—	—	1	208×268	服装と帯同者からNo.14・15の一連と思われる。白い岩肌が見える場所に30名近くをうまく配した構図で、写真師の指示があったか。
17	遊歩中にて	不詳	—	—	1	写真:163×219 台紙:196×248	尾崎・品江・市村のほか10人の集合写真。服装から散策途中でのショットか。尾崎の背後に名古屋聖堂会・三輪信太郎が見える。
18	尾崎行雄と市村一郎	不詳	—	—	1	113×156	2人の顔写真を並べた編集もの。尾崎部分の下に「Mr.Ozaki member of the House of Representative」と鉛筆書きあり(筆者は市村一二三か)。
19	山道を行く二人	不詳	—	—	1	110×156	ともに外套着用した尾崎と市村が崖上の道端に立つ。白く写った道部分に「Mr.Ozaki the House of Representative」「and father」と鉛筆書きあり(fatherとあることから市村一二三の筆跡)。場所は碓氷峠か。
20	釜尚商店製畳部工場にて	不詳	—	—	1	99×153	市村随行による工場視察時の記念写真(宣伝用?)。釜尚(かまなお)商店は、御代田(小田井宿)から移転して軽井沢町内の畳を一手に受注していた。
21	川辺にて	不詳	—	—	1	105×149	尾崎・品江・市村のほか5人が写る。洋装の品江は成人後か。川名は不明。
22	莫哀山荘庭園にて	不詳	—	—	1	113×156	尾崎を中心に市村ほか63人が写る。郵便局関係者の集会記念か。右端に写る植物棚から推定。
23	市村一郎らと	不詳	—	—	1	107×151	左右の人物は不明。別荘での4ショットか。
24	小諸の古刹にて	不詳	—	—	1	115×162	市村ほか4人が写る。場所は、荒町の浄土宗・光岳寺境内にある成田山不動堂の前。。右上に「Photo Koyama Komoro」の刷り込みあり。
25	駅前郵便局舎入口にて その1	不詳	—	—	1	225×273	市村のほか4男・行輝、長女・清香、孫娘・菊子ら16人が写る。
26	駅前郵便局舎入口にて その2	不詳	—	—	1	115×161	No.25のアングル違いのアップで、顔ぶれが減る(13人)。
27	ある日本庭園にて その1	不詳	—	—	1	113×153	大型灯籠をもつ庭園で市村ほか9人が写る。場所は不明。
28	ある日本庭園にて その2	不詳	—	—	2	113×153	No.27と同一日に庭園門前で撮影か。人物の入れ違いはあるが、後方に大型灯籠が見える。
29	上田・鴻ノ巣山にて その1	不詳	—	—	1	109×157	市村のほか長女・清香、付添い人・服部文ら12人が写る。撮影場所は上田の奇勝地・鴻ノ巣山で、No.14～16も同所(周辺一帯を松茸山とも)と思われる。書簡No.63にも鴻ノ巣山の砂利が登場する。「大森写真館 上田市新参町」の刻印あり。
30	上田・鴻ノ巣山にて その2	不詳	—	—	1	109×156	清香・服部との3ショット。No.29と服装・背景は同一で、写真館刻印もあり。
31	上田・鴻ノ巣山にて その3	不詳	—	—	1	75×157	No.29と服装が同一なので、鴻ノ巣山の松林散策中の3ショット。下半部が直線に裁断されている。
32	テオドラ夫人と市村一郎	(大正2 ～昭和6)	—	—	1	103×146	市村が尾崎夫人・テオドラ英子と一緒に松茸を採集している2ショット。昭和期の撮影か。

33	幼少の二女と三女	不詳	—	—	1	137×96	大正初めの莫哀山荘での2ショット。裏面に市村筆で大正14年時の品江・雪香の年齢が書き添えられるが、本写真とは無関係。
34	長女と二女	不詳	—	—	1	138×95	和装の清香と洋装の品江の洋風建物回廊で2ショット。大正3、尾崎大臣時代の司法省内での撮影か。裏面に清香の婚姻と大正14年時の品江年齢があるも、無関係。
35	富士の湖畔の愛娘ら	不詳	—	—	1	193×95	湖畔の栈橋でスクーターを押す雪香とボート上の品江を写したか。尾崎は一時、山中湖の別荘に暮らしたので、そのころのショットか。雪香のオートバイ運転は雑誌記事になるほど有名であった。

V その他

番号	資料名	時期	作成	受取	形態・数量	寸法(mm)	内容・備考
1	「革新党組織に察し予が政党観を述て同志諸君の教を請ふ」	不詳	尾崎行雄	—	冊1	274×200	わら半紙二ツ折5枚で、謄写版印刷。二穴ひも閉じ。虫損・シミあり。尾崎の筆跡ではないが、講演レジュメあるいは口述要領と思われる。昭和24.4発行『罌堂思想』第4号に再録されている。
2	「尾崎罌堂先生の同志諸君!!」	不詳	罌堂会本部	—	状2	190×350	会員録作成のための芳名記録願いと罌堂直筆色紙頒布の印刷通知文。同じもの2部。
3	「揮毫、講演、飲食会に関する規定」	昭和2.1	尾崎行雄	—	状2	163×218	各事項への課金や同伴条件の印刷告知文。No.4と同時期に出されたものだが、より詳細なものとなっている(改訂版か)。同じもの2部。
4	「揮毫筆跡の取扱いについて」	昭和2.1	尾崎行雄	—	状2	163×220	本年から筆跡希望は全て拒絶するが、主義主張賛同者で20円以上の活動費を寄付できる場合は1枚揮毫する旨の印刷通知文。No.153に同封されたものか、同じもの2枚。
5	「大演説会傍聴券」	(年不明)9.12	佐渡立憲青年党 新佐渡社	—	状2	137×99	内1枚に虫損か穴あり。佐渡島佐和田地区での演説会チケット。市村が傍聴したかは不明。
6	「尾崎罌堂先生胸像頒布の趣旨」	昭和4.11	名古屋罌堂会	—	状2	206×464	宣伝書と申込書からなる印刷文。市村は内1枚の申込書を使用して胸像を購入した模様。
7	「揮毫料仮証」	大正15.10.24	細田義弘	市村一郎	状1封1	状:237×162 封:190×82	揮毫25枚分、計170円の仮領収証。細田はこの時期の秘書。
8	送券	昭和12.12.30	後藤良造 市村一郎	尾崎行雄	状2	260×123	株式会社丸運軽井沢運送店の荷物発送券で、それぞれ白米2表を豆子風雲閣まで送っている(歳暮進物用か)。
9	荷札	不詳	不詳	尾崎行雄	状1	135×66	表面は墨書で「長野県軽井沢町 莫哀山荘 尾崎行雄殿」、裏面は赤字で横浜植木株式会社内国部の所在地・電話番号・振替口座番号(和文)、社名・所在地(英文)が印刷。麻のこより紐が付く。荷物内容は不明。
10	「尾崎行雄氏の横顔(三)」	不詳	小山 亮	—	切抜1	272×140	新聞(地元紙?)の切抜きで、掲載写真には市村らしき人物が同席している。筆者の小山亮は長野県選出(小諸市出身)の社会党代議士。
11	「尾崎罌堂先生の講演、揮毫、著書等を希望さる方々へ」	不詳	罌堂会本部	—	状1	197×364	昭和2.1発表の尾崎の意向に鑑み、罌堂会本部としての対応を案内する印刷チラシ。
12	「義人擁巻拜英雄 桃園聲高擁憲 功 □□□雲□泊遇 秋山啼□杜 鶴紅」	不詳	不詳	()康有	状1	182×243	和紙切り紙に鉛筆書きで、尾崎作の七言絶句を記す。何かの下書きか。為書の人物も不詳。
13	郵便貯金通帳	昭和13.7.9 ～9.28	長野貯金支局	尾崎行雄	状1封1	状:186×301 封:205×90	四ツ折で、市村が代理者として署名・捺印して届け出ている。時期的に風雲閣再建問題もあり、大金の引き出しが必要だったのであろうか。

14	風呂敷	昭和12.12.27	市村一郎	—	1	685×730	駅前郵便局新築完成披露記念品として市村が制作した。尾崎の書・杉浦非水の画・杉浦翠子の歌を配し、局舎全景画(非水筆?)も交えて市村がデザイン。正絹。
15	尾崎行雄胸像	昭和4 秋	名古屋罌堂会	市村一郎	像1	142×150×290	No.6で頒布されたブロンズ像。正面基部に「罌堂先生」、背面に「昭和四年敬作」及び「□哉」(囲みで製作者名か)の陰刻がある。木製台座があるがオリジナルかは不明(釘打ちの処理が雑なので、市村が用意したものか)。
16	尾崎行雄肖像	不詳	不詳	—	掛軸1	本紙:570×395 表具:1520×520	第2次大隈内閣司法大臣時代(大正3)の大礼服姿の写真を絹本に転写(焼付?)したものを軸装。転写(焼付?)技術の詳細は不明だが、描画でないことは確実。添書き等なし。
17	「忠誠貫□重石」	不詳	尾崎行雄	市村一郎	扇1	240×370	贈呈理由等は不明。
18	「第五十六議会の講評」	昭和4.6.20	尾崎行雄 名古屋罌堂会	市村一郎	冊1	220×150	昭和4.4.4御園座における名古屋罌堂会春季大会での講演記録。全26ページ。昭和3.12.26～4.3.25に開催された通常会の内容をいかんなく伝える。



▲矢ヶ崎川に架かる二手橋（北から）
*橋左手を少し進んだ場所に莫哀山荘があった。



▲尾崎の軽井沢別荘「莫哀山荘」
(目録番号：Ⅰ－53)



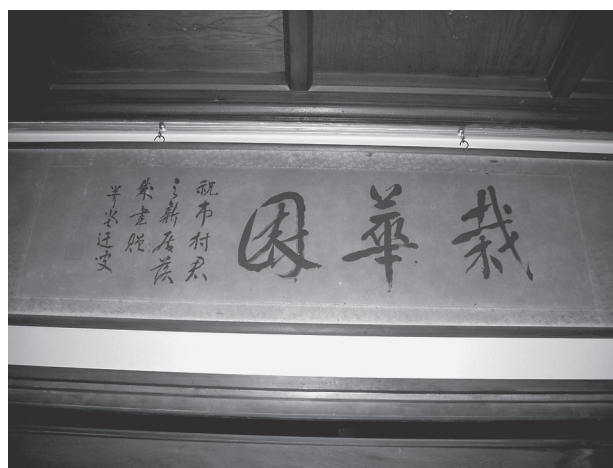
▲峠道を歩く二人
(目録番号：Ⅳ－19)



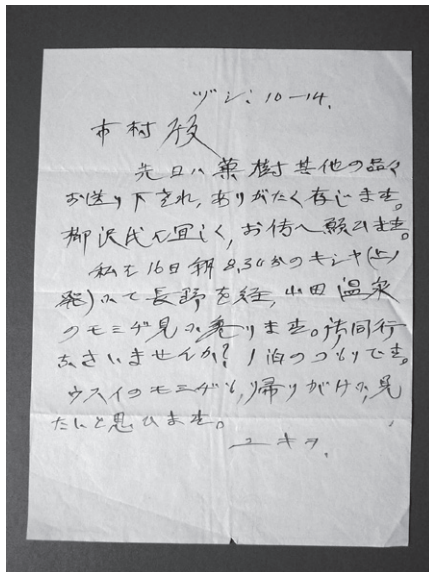
▲家族ぐるみの親交
(目録番号：Ⅳ－32)



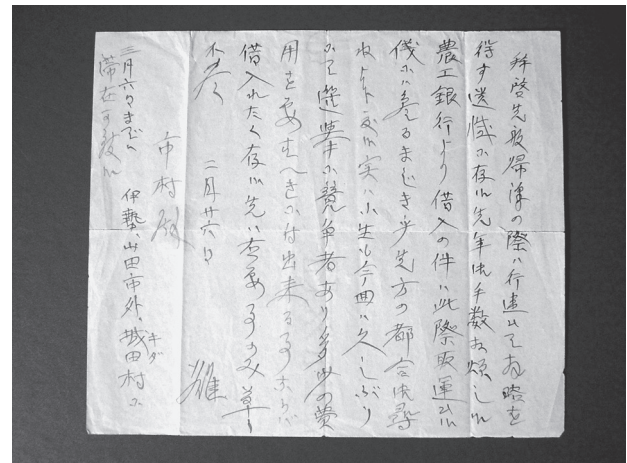
▲敷地の草花が見える駅前郵便局舎
(目録番号：Ⅳ－25)



▲尾崎揮毫の園名「栽華園」
(目録番号：Ⅲ－1)

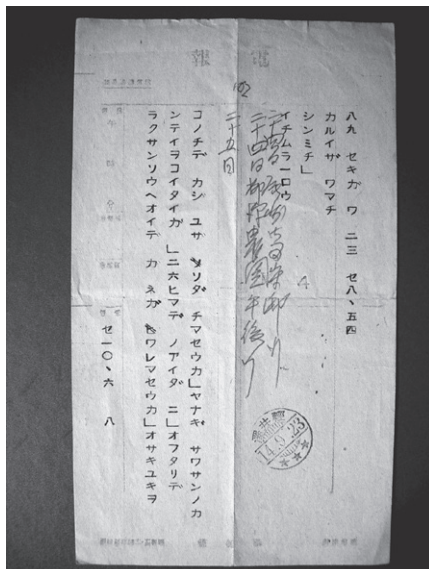


日常生活上の便り
(目録番号
: I-73)

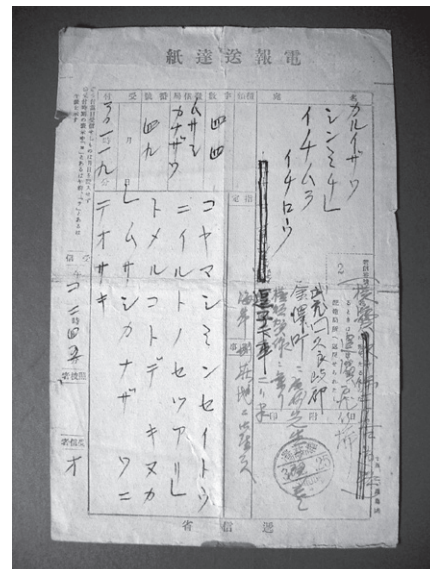


▲政治活動上の便り

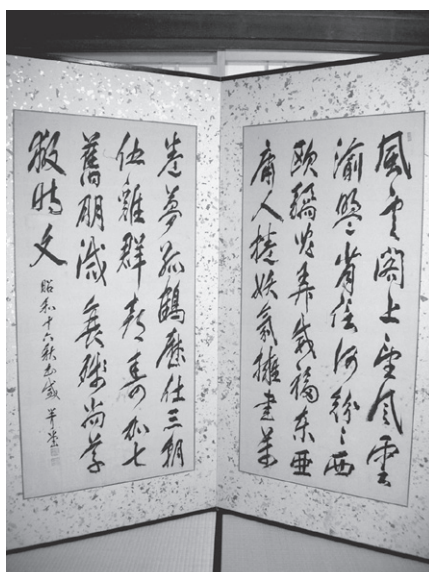
(目録番号 : I-92)



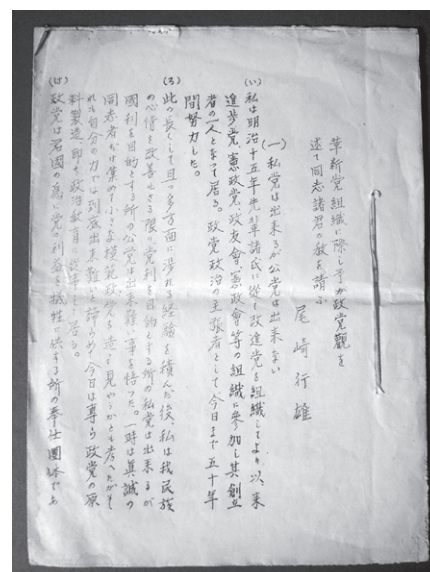
日常生活上の電信
(目録番号
: II-4)



▲政治活動上の電信
(目録番号
: II-1)



▲屏風仕立の自作詩
(目録番号
: III-4)



▲配付された印刷物
(目録番号
: V-1)

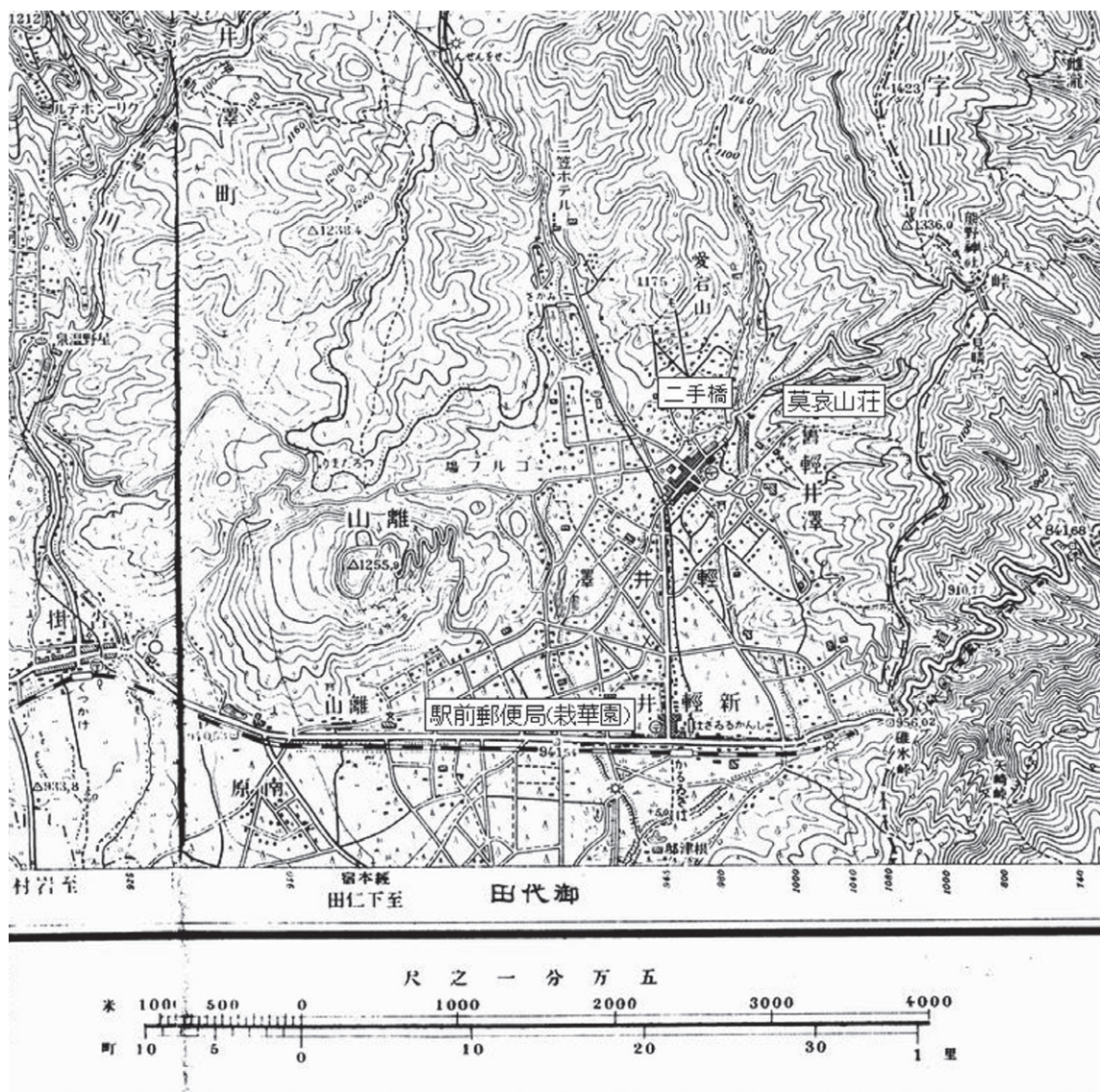


▲普選運動期の尾崎
（目録番号
：Ⅳ－1）



▲軽井沢の商業視察

（目録番号：Ⅳ－20）



▲旧輕井沢及び新輕井沢の位置と周辺地 （大正元年測図「輕井澤」に加筆／縮尺不同）